ちいきのげんきを発信中!

第1回全国公募『丹の里（まごころ）ありがとう！感謝のメッセージ』入賞作品⑯

全国から寄せられた心温まるメッセージ349点の中から入賞作品を紹介します。

僕は高校2年生。生れて以来17年間、おばあちゃんの世話になっている。

母がお勤めのため、保育園から高校までの間、おばあちゃんちへまっすぐ帰り、遊んだり塾へ通ったりして、帰って来た母と一緒に夕食をご馳走になってから帰宅しました。家の間が歩いて1分ほどの近くなので、朝もお手伝いに来てくれます。

僕が言葉の不自由な自閉症のため、心に響くように尽くしてくれます。

いつか、ご恩返しをしたいのですが、今は「ありがとう！」のお礼を言うだけが精一杯です。

神奈川県秦野市　大家　涼（17歳）

ディスカバー！丹波のきらめき企業 Vol.19

市内には、世界で活躍する企業やオンリーワンのものづくり企業、日本有数の優れた加工技術を持つ企業など、私たち市民が誇れる魅力にあふれた企業や事業所がたくさんあり、多くの方がそこで誇りを持って働いています。このコーナーでは、そんな市内のきらめき企業や事業所をみなさんにご紹介していきます。

Dynamic Ideas & Activities

DIA ダイヤ製薬株式会社 兵庫工場

節電が叫ばれたこの夏、暑さ対策はいかがでしたか？今回は暑さの強い味方、「冷却シート」を製造しているダイヤ製薬株式会社に伺いました。

★貼る技術で爆発的大ヒット!!

みなさんおなじみの冷却シート。実は、ダイヤ製薬株式会社が大手製薬会社に提案し、誕生した商品なのです！「現会長が子どものころ、寝返りを打つたびに氷のうがずれて困っていた経験から、ひらめいた商品なんです」と開発秘話を語るのは、業務課の赤井さん。発売当初から爆発的なヒット商品となり、アジアをはじめ、アメリカやヨーロッパなど、世界中で愛用されています。

そんな冷却シートは、なんと湿布薬がヒントになっているんだとか。湿布薬の肌に優しく、テープなしでも貼れるという基礎技術をつくり上げたのも、ダイヤ製薬なんです。

★あちこち貼って健康に美しく♪

当初は、発熱用として発売されていた冷却シートですが、今では、赤ちゃん用シートやメントールを多く使った目覚まし用など、さまざまな商品が発売されています。「以前、お客様から、『冷却シートのおかげで暑い夏でもぐっすり眠られる』とお礼状をいただいた時は、本当にうれしかったですね」と語る赤井さん。他にも「湿布薬」「毛穴パック」「保湿パック」など、さまざまな商品が製造されており、人々の健康や美容のために役立っています。

店頭にはダイヤ製薬の姉妹会社である「白金製薬」の名前で商品が並んでいます。みなさんもお店に立ち寄った時には、ぜひ探してみてください!! 丹波でつくられた、たくさんの「貼る」商品で癒されてみませんか!?

わが社のきらめく「丹波人」

「会社の敷地内にある畑で収穫した野菜を使ってバーベキューをするのが楽しみです」と話すのは、製造部の戸田和歌子さん（28歳）。畑でとれた黒豆は、取引先の企業にも好評なんだとか。

「品質管理には、職員自ら試してみるのが一番。腕中が冷却シートだらけになっている人もいますよ」と戸田さん。なかには、保湿パックを貼って仕事をしているというツワモノも…

冷却シートの製造過程。体の熱を取るジェルの部分は、できたてのお餅のような柔らかい状態で薄く伸ばし、シートにしています!!

［会社概要］

■所 在 地　柏原町大新屋 60 - 1
■電話番号　70 - 1100
■ホームページ　http://www.dia-pharma.com
■主な事業内容　医薬品、化粧品、雑貨品の製造
■従業員数　196 人

ちーたん日記

「8月18日（土）おそらのきもち」

今日はひどい大雨。いなずまが何度も光ってた。最近、こんな天気が多いね…。ちーたんは、きっと、お空が苦しんでるんだと思うなぁ。

そらが苦しんでるんだと思うなぁ。自然を大切にしない人間たちに怒ってるんだ。そして、おそらは苦しさをがまんしきれずに大泣きしてしまうの。いったん泣きだしたら、いろんなものが流されたって苦しんだって、だれも涙の雨を止めることはできないよ。でもね、涙がかれるまで泣きつくしたら、おそらはピタッ！と泣きやんで、ケロッとしてるんだ。さっきまでの涙がウソのように、スッキリした顔で、さわやかに笑っているよ。

あっ！きれいな虹だぁ！おそらの最高の笑顔だよ。

これ以上、おそらを苦しめないようにしたいな。

「8月25日（土）秋の丹波は魅力的！」

JR三ノ宮駅で秋の丹波をPRしたんだ。配ったパンフレットには、もみじの見どころや、丹波ならではのおいしいお店が満載だったよ。

秋には丹波の山たちが、赤やだいだい色にころもがえするの。ドキッ☆とするくらいステキで、コスモス畑もきれいだよ～。そう！アウトドアにはピッタリの季節だよね。澄みきった空の下、さわやかな風にふかれてピクニックをしたり、もちろん、お昼には丹波のおいしいものがいっぱい詰まったお弁当を食べるんだ。

歴史あるお祭りも見逃せないよ。

むかしの人はどんな想いをもっていたのかな。きっと、今とはちがう時の流れがあったんだろうなぁ～。

来月号の「ちーたん日記」もお楽しみに！

みんなでまこう、ひろげよう！

嬉しいことばの種② 「おはよう」

丹波市エグゼクティブアドバイザー・村上信夫

「ありがとうプロジェクト」の一環として、元NHKエグゼクティブアナウンサーの村上信夫さんに、「ことば」の魅力がたっぷりつまった心に響くエッセイを連載いただきます。（全8回）

丹波の朝。あちこちから「おはようございます」の挨拶が聞こえてくる。顔見知りが多いから、自然に言葉も出てくるのだろうが、都会ではそうはいかない。見知らぬ人同士が、すれ違いざまに「おはようございます」と言うのは、まず聞いたためしがない。家族同士でも朝の挨拶も交わさないまま出かけていくことが多い。

ましてや、自分自身に「おはよう」という人は、まずいない。朝、誰しもが鏡に自分の顔を映すことだろう。ボサボサの髪の毛をかきあげながら「二日酔いだ～」、化粧気のない顔を見つめながら「もっと寝ていたかった～」と言う朝を変えてみる提案をしたい。

少しだけ早起きして、鏡に映った自分の顔に口角あげてニコッとして「おはよう！」と言ってみるのだ。そして「顔の艶がいいぞ」「寝癖がないわ」と自分で自分を褒める言葉を口にすることも忘れないでほしい。60兆の細胞のひとつひとつに聞こえるように・・・。

心の窓が開いて、その日一日ご機嫌よく過ごせるはずだ。初対面の人にも自然体で挨拶の声がかけられるかもしれない。「挨拶」の意味合いは、相手に心を開いて接することだ。相手に気持ちよく挨拶するためにも、まずは自分にご挨拶。

村上信夫

1953年、京都生まれ。元NHKエグゼクティブアナウンサー。2001年から11年に渡り、『ラジオビタミン』や『鎌田實いのちの対話』など、NHKラジオの「声」として活躍。この4月からは、全国を回り「嬉しい言葉の種まき」をしながら、文化放送『日曜はがんばらない』ABCラジオ『osaka歴史ロマン』月刊『清流』連載対談などで、新たな境地を開いている。